

都道府県・ 指定都市番号	都道府県・ 指定都市名	大阪	研究課題番号・校種名	3 (4) 中学校
			領域名	E S D
研究課題	学校全体で取り組む課題 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究			
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	おおさかふねやがわしりつだいじゅうちゅうがっこう 大阪府寝屋川市立第十中学校 (425人)			
所在地 (電話番号)	大阪府寝屋川市成田南町20番7号 (072-835-9296)			
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www2.city.neyagawa.osaka.jp/school/j/dai10/			
研究のキーワード	総合的な学習の時間 (地域学習、職業体験、平和学習) E S Dカレンダー 学習発表会 (SDGs)			
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ E S Dカレンダー作成を通じた「総合的な学習の時間」を軸とする各教科等との関連性の可視化。 ○ 探究的な学びと生徒の主体的な活動 (SDGs 17との関連) ○ 「総合的な学習の時間」における3つの資質・能力の向上 			

1 研究主題等

(1) 研究主題

ホールスクールアプローチで育む 自分を大切に ひとを大切に 未来を大切にできる生徒の育成

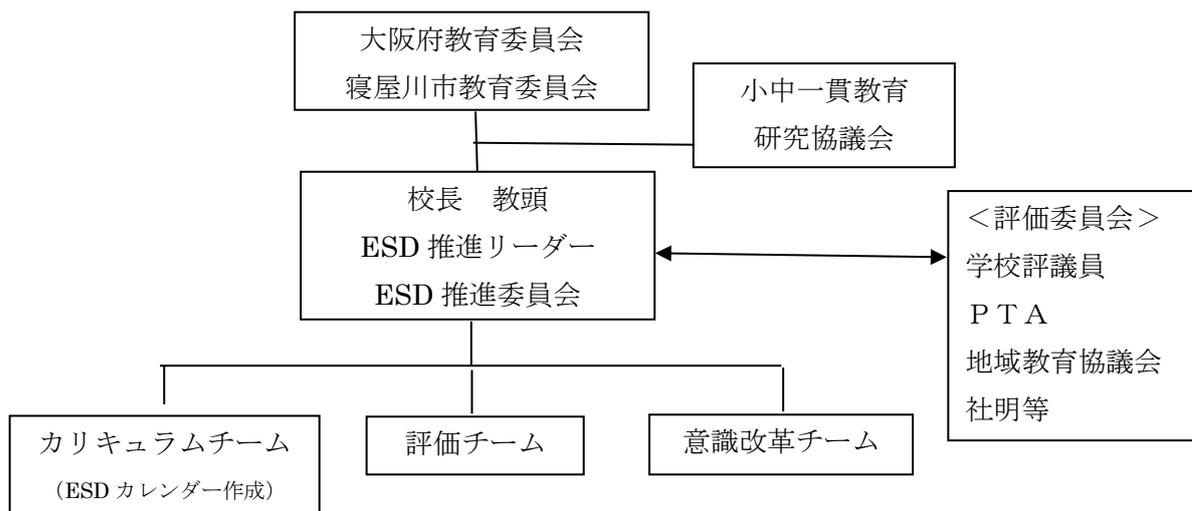
(2) 研究主題設定の理由

これからの変化の激しい社会を生き抜くためにも、生徒たちは、知識と技能を身につけ、思考力・表現力・判断力を養い、主体性をもって多様な人々と協働できる態度などの資質・能力を身につけなければならない。

本校は、校区の二つの小学校とともに9年間を見通した継続性・系統性・計画性のある小中一貫教育を進めている。校区には大規模な二つの団地群を有し、地域の高齢化率も高くなっている。生徒たちは自分たちの住む地域を「住みやすい地域である。」と感じながら、全国学力学習状況調査における「地域や社会で起こっている問題に関心がある」という質問については34%と全国平均以下である。次代を担う地域の一員としての自覚をもち、視野を広げ、仲間と協働した取り組みを進めることで、地域に貢献し、逞しく生きる生徒の育成をめざしたい。

本校ではこれまで国際理解教育、環境教育、食育等、E S Dの視点を生かした取組を進めてきたが、3年間の系統性を生かしたものには至っていない。ユネスコスクールとして、地域や社会とも連携しながら、学校全体で取り組みを進め、様々な探究活動を通して、「自分を大切に作る心」や「他者と協働しながら進んで参画する態度」を身につけることで、地域や社会に貢献し、将来にわたって持続可能な社会を生きぬく生徒の育成が可能であると考えます。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

平成 29 年 度	4月	ESDの理解…教職員・生徒への広報活動 生徒への事前アンケート調査①
	5月	ESD研修会① (同志社女子大学 藤原孝章教授)
	6月	ESD研究授業 (国立教育政策研究所 遠山一郎調査官)
	7月	生徒へのアンケート調査②
	8月	ESDカレンダー作成 三校合同研修会 (ESD研修会② 奈良教育大学 中澤静男准教授)
	10月	地域と協働したESD活動 (小学生、保護者・地域と協働した取組) ESD研修会③ (同志社女子大学 藤原孝章教授) 学習発表会 (ESDをテーマにした各学年総合的な学習の時間、生徒会の取組発表)
	11月	地域と協働したESD活動 (幼児・小学生・保護者・地域と協働した取組) 先進校訪問 (太田区立大森第六中学校 大阪市立南小学校)
	12月	中間のまとめ作成 生徒へのアンケート調査③
	1月	小中三校授業交流会「ESDと道徳」 中間報告書づくり
	2月	ESD研究授業 (同志社女子大学 藤原孝章教授) 生徒へのアンケート調査④
	3月	2年次年間計画作成

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

<めざす生徒像>

- ・身の回りの出来事を様々な側面や立場から考える事のできる生徒 (Care)
- ・仲間と協力することのできる生徒 (Communication)
- ・地域の一員として進んで参加できる生徒 (Action)

ESD への取組については、これまでの本校が実践してきた数々の教育活動を ESD としてとらえ直し、既存の取り組みを発展させることで実現できるものもあると考えた。そこで、1 年次においては、3 つの資質・能力（多面的、総合的に考える力・他者と協力する態度・進んで参加する態度）を意識した上記のめざす生徒像を掲げ、下記の 3 点の研究を進めることで研究主題に迫ると考えた。

- ①「総合的な学習の時間」を軸とした「各教科」との関連付けによるカリキュラムの再構築（ESD カレンダーの作成）
- ② 探究的な学びと生徒の主体的な活動の実践（SDGs 17 との関連）
- ③「総合的な学習の時間」における 3 つの資質・能力の育成に照らした生徒の変容の把握

（2）具体的な研究活動

- ①「総合的な学習の時間」を軸とした「各教科」との関連付けによるカリキュラムの再構築（ESD カレンダーの作成）

年度当初に ESD 教員研修を行い、同志社女子大学藤原孝章教授に取組の原則として、①社会性・市民性 ②探究性 ③総合性・横断性 ④アクティブ・ラーニングの「4 つのキーポイント」をご指導いただいた。

ESD カレンダー作成に当たっては、総合的な学習の時間を軸として、教科横断的にどのように系統立てて実践するかを把握できるよう、各教科及び領域の学習内容を 7 つのカテゴリーに分類し、総合的な学習の時間の学習内容と関連している単元を整理し、ESD の視点や身に付けさせたい 3 つの資質・能力に絡めた単元目標を作成した。カリキュラム・マネジメントの観点からも、学校全体の学習活動の全体像を可視化し、各教科・領域との関連性を明示することができた。

- ②探究的な学びと生徒の主体的な活動の実践（SDGs 17 との関連）

「総合的な学習の時間」の単元として、「100 年後もより住みやすい寝屋川へ 2017」（SDGs 11）、2 年「自分の 10 年後をよりよく生きるために今できること」（SDGs 8,2,11,17）、3 年「自分たちが世界平和のためにできること」（SDGs 16）と題し、SDGs、ESD の視点からの授業として見直した。授業では多面的・総合的に考える力を育み、主体的・対話的で深い学びとなるよう意識した。ESD の授業への取組については、ESD の視点で身に付けさせたい資質・能力を明記し、単元の評価規準（ルーブリック）の中で、それがどのように測れるのかも意識して指導案を作成した。最終的には学習発表会の舞台においてその成果を発信し、振り返りを行った。授業については探究的な学びとして、「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り」の流れで行うこととした。また、生徒会、生徒委員会が意欲的にさまざまな ESD 推進活動に取り組んだ。

- ③総合的な学習の時間における 3 つの資質・能力の育成に照らした生徒の変容の把握

学習発表会後には 3 つの資質・能力に着目したアンケートを取り、1 学期末にアンケートを取ったものと比較し、各学年で考察を行った。1 年生では「他者と協力する力」に関して伸びが見られたが、その他に関しては、顕著な伸びは見られなかった。2・3 年生では「多角的・総合的に考える力」が大きく伸びた。自分たちで劇を作り上げるために話し合う機会が増え、他者の意見を多く聞く機会が多かったことや、戦争や平和等について、様々な立場で考えることができたことによると考えられる。

(3) PDCAサイクルへの取組について

検証改善サイクル実施のため、事前調査として2. 3年生には前年度3月に、1年生には4月に第一回意識調査を実施し、1学期末・2学期末にも行った。その結果、1. 2年生において、「地域の活動があれば参加したい」と考える生徒が増加したことは、地域に目を向けた取り組みを行った成果であると考えられる。3年生は現実的な行動には結びつけられなかったが、地域をよりよくする方法などの意見を述べている生徒が半数以上おり、自分たちの住んでいる地域についての関心は高いことがわかる。生徒たちは理想の地域として、「きれいなまち」「地域の方の関わりが深いまち」「犯罪のないまち」というイメージを持っていると推測できる。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

【今年度の取り組みにおける成果】

- 【教科横断】 ESD カレンダーを作成し、「総合的な学習の時間」の授業をベースに他教科、道徳や生徒会活動などの他領域との関連性を可視化することができ、広い視野で教育活動を進めることができた。
- 【生徒の ESD への肯定的な認識】 生徒会や生徒委員会が自主的に ESD 活動を行う中で、ESD への肯定的な認識が広がりつつある。また、各学年の学習発表会での発表や、委員会活動を協働的に進めることができ、学習活動が活性化している。
- 【地域連携】 地域の方にゲストティーチャーとして協力を得たことで、生徒の地域の方々への感謝の想いや地域を想う心が伝わり、地域の方々から生徒に感謝の心をいただいたりするなど、双方向の関係を深めることができた。

【今年度の取り組みにおける課題】

- 【ESD カレンダーの改善】 作成した ESD カレンダーは「環境」「平和」などの7つのカテゴリー、3つの資質・能力でとらえて作成したが、さらに活用しやすいように改善する。
- 【学習への評価活動】 「総合的な学習の時間」や各教科での ESD の学びをファイリングし、形として残すなど、ポートフォリオや評価への取り組みをさらに充実させる必要がある。
- 【ESD の視点に立った授業改善】 7つの能力・態度について、つけたい力を明確にしたルーブリックを作成し、授業改善に生かす。

4 研究協議会の中で協議したいこと

- ESD の学びをどのように評価しているのか。
- 教科の特性を生かしながら、ESD の内容をどう取り入れるのか。
- 保護者・地域の方々を巻き込んだ校区一体となった ESD の推進への工夫。

5 今後の取組

- ESD カレンダーをさらに教科・領域のつながり、学年の系統性を意識したものとして整理し、年間計画を作成する。
- 各教科、「総合的な学習の時間」におけるルーブリックの作成と自己評価方法の確立。
- ポートフォリオ、ルーブリック等、評価に関する研修の実施。
- SDGs 17 の目標を達成するための生徒自らが取り組める方策と手立て。
- さらにホールスクールで進めるためのより機能的な組織づくり。